

# コロナストレスの時代に

## ——ジェンダー、労働、教育

新型コロナウイルス感染拡大は、これまで社会が内包していたさまざまな問題を浮き彫りにした。とりわけ、突然の一斉臨時休校要請は、教職員、子ども、保護者に大きな混乱や不安をもたらした。本号では、休校対応や感染症対策に追われる学校現場の様子や、子どもたちへの影響についてレポート。さらに、女性労働者への被害の集中、DV被害の深刻化、居場所のない若者、10代からの妊娠相談など、コロナ禍において見えてきた社会の課題を探る。

女も男も No.136—2020年 秋・冬号／B5判／96頁／本体1,771円+税

### 主な内容

#### Part 1 しわ寄せは女性労働者に

女性の休業者比率は男性の3倍以上  
——被害は子育て女性に集中

周 燕飛 (労働政策研究・研修機構主任研究員)

コロナ労働相談の半数以上は女性非正規労働者  
山根木 晴久 (連合総合運動推進局総局長)

「在宅ワーク70%」で見過ごされる  
「家庭以内のワークライフバランス」  
竹信 三恵子 (ジャーナリスト)

《探る・深める》フリーランスにセーフティネットを  
森崎 めぐみ (女優、日本俳優連合国際部長)

#### Part 2 “異例の事態”に向き合う学校現場

新型コロナウイルス感染症対応に関する日教組のとりのくみ  
丹野 久 (日教組中央執行委員・総合政策局局長)

【学校現場から①】  
教育現場で、ソーシャルディスタンスが当たり前になる不安 (長崎県)

【学校現場から②】  
「学校とは」「教育とは」と改めて考える時間が持てた (岩手県)

【学校現場から③】  
状況に対応した生活の仕方を自ら考え工夫するよう指導 (山形県)

【学校現場から④】  
保健室でのかわりを大切に、  
感染症への差別を子どもたちと一緒に考えたい (大分県)

【学校現場から⑤】  
発注キャンセル、食材廃棄、簡易給食など  
異例づくめの状況下での給食 (大阪府)

「コロナにかかってしまったら嫌われるかも」と心配  
——「コロナ×子どもアンケート」から見えてくるもの  
半谷 まゆみ (国立成育医療研究センター社会医学研究部研究員)

コロナ禍で広がる教育格差——今が議論の時  
前馬 優策 (広島経済大学教養教育部准教授)

《探る・深める》働きながら学ぶ外国人留学生を襲ったコロナ禍  
佐藤 由利子 (東京工業大学環境・社会理工学院准教授)

#### Part 3 「ステイホーム」のかけ声の陰で

コロナ禍とDV  
北仲 千里 (全国女性シェルターネットワーク共同代表)

居場所のない若者——「家」は必ずしも安全な場所ではない  
橘 ジュン (BONDプロジェクト代表、ルポライター)

コロナ禍における10代の「予期せぬ妊娠」  
——相談から見えた社会の課題  
土屋 麻由美 (ピッコラーレ副代表、助産師)



## 注文FAX 03-3288-5577

発行 労働教育センター TEL 03-3288-3322 FAX 03-3288-5577  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-2-34 千代田三信ビル5F <http://www.rks.co.jp>

■取引取次：日販・トーハン・楽天BN・中央社・日教販  
■返品は無期限で承ります【返品了解：高橋】

注文書	貴店番線印	書名	ご発注日	労働教育センター様
		女も男も No.136 コロナストレスの時代に ——ジェンダー、労働、教育  定価：本体1,771円+税 ISBN978-4-8450-0867-4	年 月 日 ご担当者名	
		冊		